

事業コード	R3-建-継-08			区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地すべり対策事業			部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	地すべり対策事業			班 名	砂防・防災班 (tel)018-860-2518
路線名等	小湊地区			担当課長名	河川砂防課長 田森 清美
箇所名	北秋田市阿仁小湊			担当者名	主幹(兼)班長 由利 一
プランとの 関連	政策コード	01	政 策 名	県土の保全と防災力強化	
	施策コード	01	施 策 名	災害に備えた強靱な県土づくり	
	指標コード	03	施策目標(指標)名	県民の生命と財産を守る安全な地域づくり	

1. 事業の概要

事業期間	H28~R7(10年)	総事業費	25.0 億円	国庫補助率	50.00	
事業規模	集水井工 N=6基、集水ボーリングΣL=16,775m、排水ボーリングΣL=422m、アンカー工 100本×4段					
事業の立案 に至る背景	当地区は北秋田市阿仁小湊地内に位置し、平成27年4月の融雪により斜面変状が認められたことから、同年5月より変動監視を行っている。平成28年3月の融雪期には大規模な亀裂が発生するなど地すべり活動が活発化しており、豪雨等により地すべり災害が発生した場合、人家等に甚大な被害をもたらす恐れがあるため、地すべり対策事業による施設整備が必要である。					
事業目的	<p>【主たる目的】 地すべり活動を防止施設で抑制・抑止することにより、人家や直下にある河川等公共施設を保全し、安全・安心な地域の創出を図る。</p> <p>【保全対象】 人家51戸、一級河川阿仁川、集会所等6箇所、小屋42軒、橋梁2基、市道1,090m、秋田内陸縦貫鉄道秋田内陸線530m</p>					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		前回評価	今回評価	増減	理由等	
	事業費	2,500,000	2,500,000	0		
	経費内訳	工事費	2,316,000	2,000,000	△316,000	抑止対策工法検討による減
		用補費	14,000	14,000	0	
		その他	170,000	486,000	316,000	継続観測及び解析に伴う増
	財源内訳	国庫補助	1,250,000	1,250,000	0	
		県債	1,125,000	1,125,000	0	
その他		0	0	0		
一般財源	125,000	125,000	0			
事業内容	調査観測 集水井工 集排水ボーリング工 アンカー工	調査観測 集水井工 集排水ボーリング工 アンカー工				
事業の進捗 状況	全体計画 25.0億円、令和2年度末投資額 11.26億円、進捗率 45.0% 集水井工6基並びに集排水ボーリングにより地下水排除を進めている。さらに集水ボーリングの施工により、地下水位を低下させ、地すべり変動の抑制を図る。					
事業推進上 の課題	特になし					
関連する計 画等	「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」において、6つの重点戦略をあわせて推進する基本的な政策として「県土の保全と防災力強化」が位置づけられている。					
情勢の変化 及び長期継 続の理由	特になし					
事業効果把 握の手法及 び効果	指標名	地すべり危険箇所に対する概成率(%)				
	指標式	対策済み箇所数/地すべり危険箇所数(%)				
	指標の種類	○ 成果指標	● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	目標値 a	26.2%			データ等の出典 河川砂防課調べ	
	実績値 b	25.6%				
達成率 b/a	97.7%			把握の時期 令和3年3月		

前回評価結果等	<input checked="" type="radio"/> 選定または継続 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 保留または中止
	①指摘事項 特になし
	②指摘事項への対応 特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評 価 点
必 要 性	地すべり災害が発生した場合、人家のみならず、一級河川阿仁川や秋田内陸縦貫鉄道秋田内陸線等公共施設にも被害が及ぶため、事業の必要性は高い。	20点
緊 急 性	地すべり防止施設の整備を進めているが、豪雨等により地すべりの動きが大きくなった場合、極めて甚大な被害を及ぼす恐れがあるため、早急に地すべり対策を実施し、安定化を図る必要がある。	25点
有 効 性	地すべり対策施設を整備することにより、地すべり災害から人命や財産、公共施設が守られ、地域の安全性を確保することができるため、有効性が高い。	8点
効 率 性	事業の費用便益比は1.46であり、効率性は高い。 また、地すべりの抑止工において、他工法との比較や解析結果等を踏まえた見直しにより、コスト削減を図る。	20点
熟 度	平成27年5月から地すべりブロックの挙動を観測しており、北秋田市や秋田内陸縦貫鉄道と連携した警戒体制を構築している。 北秋田市においても土砂災害等への危機管理意識が高く、事業への必要性を認識している。	15点
判 定	ランク (●Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ) 地すべり災害から人命・財産を保全するには地すべり対策事業が最適であると判断できるため、引き続き事業の継続が必要である。	88点
総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 見直し <input type="radio"/> 中止 事業の継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

コスト削減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 地すべり対策事業

事業コード (R3-建-継-08)
箇所名 (北秋田市阿仁小淵)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	災害発生時の影響(被害想定)	人家戸数	20戸以上	10	10	51戸
			5戸～19戸	7		
			1戸～4戸	3		
			0戸	0		
	公共・公益施設	以下に挙げる公共・公益施設がある 要配慮者利用施設 重要交通(緊急輸送道路、避難路、鉄道) 防災拠点(警察、消防、役場等) ライフライン施設(電力、ガス、水道等)	公共・公益施設がある	5	10	一級河川阿仁川、秋田内陸縦貫鉄道、小淵駅、橋梁2橋、市道1090m、集会所2箇所
			なし	0		
			計	20		
緊急性	地すべり変状	変動の程度	地すべりが確定変動程度	20	15	融雪期に準確定変動程度の変動が確認されている
			地すべりが準確定変動程度	15		
			地すべりが潜在変動程度	10		
			地すべりが潜在変動未滿	0		
	災害発生の危険度	河川埋塞による湛水・氾濫の有無	あり	5	5	一級河川阿仁川において、湛水・氾濫の危険性有り
			なし	0		
	湧水の有無	常時あり 降雨時にあり なし	常時あり	5	5	市道脇から湧水流出あり
			降雨時にあり	3		
			なし	0		
	計		30	25		
有効性	上位計画への貢献	第3期ふるさと秋田元気創造プラン	プランに関連する事業である	5	5	
			プランとは別の個別計画に関連する事業である	3		
			プラン、個別計画に関連しない事業である	0		
	ソフト対策との関連性	土砂災害警戒区域等の指定状況	土砂災害特別警戒区域に指定	5	3	土砂災害警戒区域の指定(H31.3.22)
			土砂災害警戒区域に指定	3		
計		10	8			
効率性	費用対効果	B/C	1.0以上	10	10	B/C 1.46
			1.0未滿	0		
	事業実施コストの縮減	コスト縮減の具体的計画	あり	5	5	他工法との比較や解析結果を踏まえた抑止工の見直しにより、コスト縮減を図る
			なし	0		
	前回計画との比較	前回計画事業費からの縮減	減少または10%未滿の増加	5	5	変更なし
			10%以上～30%未滿の増加	3		
			30%以上の増加	0		
計		20	20			
熟度	事業の進捗状況	今後の進捗見込み	課題はなく順調な進捗が見込まれる	10	10	
			課題はあるが当面の進捗に影響はない	6		
			課題があり、事業の停滞が懸念される	0		
	事業の進捗状況	進捗率(事業費)	8割以上完了	10	5	(R2末)11.25億円/ (計画)25.00億円 =45.0%
			5割以上完了	8		
			1割以上完了	5		
計		20	15			
合計				100	88	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上		
II	優先度が高い	60点以上～80点未滿		
III	優先度が低い	60点未滿		